

平成18年度「専修学校を活用した若者・自立挑戦支援事業」成果報告書

事業名	高等専修学校生を対象としたヒューマンスキル強化のためのブレンディッドeラーニング		
法人名	学校法人石川学園		
学校名	専門学校大育		
代表者	理事長 石川 正一	担当者 連絡先	石川 正剛 TEL 098-885-5311
<p>1. 事業の概要</p> <p>高等専修学校生のヒューマンスキルを向上させることを目的としたブレンディッドラーニング、すなわちeラーニングとグループ学習を組み合わせた教育プログラムの開発および適用を行った。具体的には、まず専門基礎スキルとヒューマンスキルを兼ね合わせた総合的カリキュラムを開発した。さらに、簿記の仕訳を対象としたCBT型のeラーニングを開発し、またビジネスマナーを学習するeラーニングを調達し、これらを組み合わせて教育プログラムを構成した。加えて、ヒューマンスキルの実務的な研修体系を目指し、セルフマネジメント分野のグループ学習教材を開発し、eラーニングを融合させた総合的なスキル強化のプログラムとした。さらに、その有用性を確認するための実証を行い、想定した効果を得ることができた。今回の実施によって、高等専修学校生が社会と融和し、他人とのコミュニケーションを円滑に行えるようにし、その後の進路に対して積極的なアプローチを行うことができるカリキュラムを構築することができた。</p> <p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p> <p>実態調査・教育プログラム開発・実証実験の各成果について、当初予定していた達成度に十分到達したと評価している。実態調査では、これまでヒューマンスキルという観点で整理されていなかった高等専修学校の教育状況を明らかにすることができた。事業の中では、重点的に取り組んだ教育プログラムについては、ブレンディッドラーニングの特性を上手く活かした構成のeラーニングとグループ学習を開発することができた。</p> <p>②事業により得られた成果</p> <p>実態調査・教育プログラム開発・実証実験の各成果について、当初予定していた達成度に十分到達したと評価している。実態調査では、これまでヒューマンスキルという観点で整理されていなかった高等専修学校の教育状況を明らかにすることができた。事業の中では、重点的に取り組んだ教育プログラムについては、ブレンディッドラーニングの特性を上手く活かした構成のeラーニングとグループ学習を開発することができた。</p> <p>③今後の活用</p> <p>本事業成果の中で、直接的な今後の活用対象となるものとして教育プログラムを挙げることができる。特にその中で、仕訳をトレーニングするシステムは、来年度から授業の中に取り入れて行けると考えている。</p> <p>④次年度以降における課題・展開</p> <p>本事業成果である教育プログラムは、カリキュラムの完結性は十分であるが、それに対応したシステムや教材は、活用の意味では問題はないが、予算の制約から部分的な開発に留まった。今後、機会があれば、完結性を高める意味で、システムの拡張や追加教材の開発を検討する必要がある。</p>			

3. 事業の実施に関する項目

①実態調査

高等専修学校生に対する基本的なヒューマンスキル教育の実態を明らかにするために、全国の高等専修学校での実施状況を取りまとめた。また、企業採用のニーズを確認するために、高等専修学校の教員や生徒の採用実績がある地元企業等に対してヒアリングを行い、内容を補強した。また、有効なブレンディッドeラーニングを開発するために、既存の事例について調査を行った。

A 高等専修学校のヒューマンスキル教育に関する実態調査

まず、教員および企業採用担当者への都合7件のヒアリングを行い、高等専修学校生へのヒューマンスキルに関するニーズを確認した。その上で、全国600校以上の全高等専修学校で実施されている特色のある教育内容の中からヒューマンスキルに関係するものを抽出し、この状況を確認した。関連した教育はいくつか存在するが、ヒューマンスキルを直接的に強化するものは見受けられないことが判明した。

B ブレンディッドラーニングに関する実態調査

ブレンディッドラーニングを実践している教育機関や企業等に関する情報を収集し、代表的なものについて取り纏めを行った。

②教育プログラム

高等専修学校生向けの教育プログラムとしては、挨拶をはじめとしたマナーなどのエントリススキルやコミュニケーション、基盤的(ベーシック)なセルフマネジメントからはじめ、段階的に問題解決型のスキルを強化する方針とした。すなわち、高等専修学校生が、はじめて社会と接する就職の機会を念頭に置き、ビジネス現場を想定したマナーやコミュニケーションを体得できる教育内容とした。

カリキュラムの構成としては、ヒューマンスキルの修得は、様々な学習の局面でも強化されることが望ましいため、簿記をはじめとした専門的な学習とヒューマンスキルの強化も兼ね合わせた教育内容とした。

具体的には、

専門基礎スキル分野 仕訳・計算・漢字・英単語など

ヒューマンスキル分野 セルフマネジメント、プレゼンテーション、ロジカルシンキング、戦略思考など

を科目として設定し、総時間数は76時間とした。

教育の手法には、グループ学習の要素を取り入れ、さらには知識の習得には、その効率性の観点からCBTやeラーニングを取り入れるブレンディッドラーニング形態の教育プログラムを開発した。

③実証実験

高等専修学校生のヒューマンスキルおよび業務スキルを向上させる教育プログラムの有用性を実証するために、全プログラムの特性を評価できるモデル講座を計画し実施した。

大育高等専修学校の生徒9名を被験者として、2月21日(水)、22日(木)の2日間に

第1日目 ①仕訳トレーニング(CBT) ②ヒューマンスキル(eラーニング)

第2日目 ③ヒューマンスキル(グループ学習)

のプログラムを組んだ。

①②でのテスト結果および①②③のアンケート結果から、今回の教育プログラムが高等専修学校生のヒューマンスキル向上に役に立つものであるとの高い評価を得ることができた。

④事業の成果

本事業成果である教育プログラムの中で、仕訳のトレーニングを行えるシステムは、仕訳作業の標準的な手順やその基本概念を素直に反映した画面構成と手順になっている点に特徴があり、最も工夫した点であると言える。